

令和8年度(2026)
全国及び市学力・学習状況調査の結果について

出雲市教育委員会

令和 8 年度(2026)全国及び市学力・学習状況調査の結果について

出雲市教育委員会では、学校、家庭及び地域による学力向上の取組をより一層推進していくために、全国及び市学力・学習状況調査の結果をまとめました。

この調査結果をもとに、市教育委員会及び学校では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等を図ります。

なお、この学力調査結果は、学力の一部であり、学力の全てを表すものではありません。

【表記について】

①全国または市の平均正答率と比較した状況について記載するときは、次のように表現する。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ・ ± 2 未満 | 「同程度」「差は見られない」 |
| ・ ± 2 以上、± 3 未満 | 「やや上回る」または「やや下回る」 |
| ・ ± 3 以上、± 4 未満 | 「上回る」または「下回る」 |
| ・ ± 4 以上 | 「大きく上回る」または「大きく下回る」 |

②全国または市の IRT スコアと比較した状況について記載するときは、次のように表現する。

- | | |
|----------------|----------------|
| ・ IRT スコアと同スコア | 「同程度」「差は見られない」 |
| ・ IRT スコアより高い | 「上回る」 |
| ・ IRT スコアより低い | 「下回る」 |

③「結果分析」の欄について記載するときは、成果を○、課題を●とする。

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和8年4月23日（木）（調査基準日）

※中学校英語3技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）は、令和8年4月20日（月）～23日（木）のいずれかで実施

中学校英語「話すこと」は、令和8年4月24日（金）～5月29日（金）のいずれかで実施

(2) 対象学年及び教科等

小学校 第6学年（国語、算数、意識調査）

中学校 第3学年（国語、数学、英語【CBT】、意識調査）

※【CBT】（Computer Based Testing）児童生徒用タブレットPCを活用したテスト

(3) 調査結果

- ・小学校国語、算数及び中学校国語、数学の結果は、平均正答率
- ・中学校英語3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」【CBT】の結果は、IRTスコア
- ・中学校英語「話すこと」【CBT】の結果を含む4技能のIRTスコアは、9月以降に返却予定

※IRTスコア…問題の難易度などから学力を推定し、500点を基準とする。
異なる問題を解いても学力を比べられるため、経年比較ができる。

① 小学校第6学年

教科	国語		算数	
年度	R 7	R 8	R 7	R 8
出雲市	65	58	56	54
島根県	64	56	55	52
全国	66.8	60.9	58.0	56.4
市と県の差	+1	+2	+1	+2
市と国の差	-1.8	-2.9	-2.0	-2.4

② 中学校第3学年

教科	国語		数学		英語3技能（IRT）
年度	R 7	R 8	R 7	R 8	R 8
出雲市	55	65	49	57	491
島根県	53	62	46	53	473
全国	54.3	63.9	48.3	57	499
市と県の差	+2	+3	+3	+4	+18
市と国の差	+0.7	+1.1	+0.7	±0	-8

- ・小学校第6学年の国語、算数は全国平均正答率をやや下回った。
- ・中学校第3学年の国語、数学は全国平均正答率と同程度であった。英語（3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）は、全国平均IRTスコアを下回った。

2 出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和8年4月23日（木）

(2) 対象学年及び教科

- ・ 小学校第4学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・ 小学校第5学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・ 中学校第1学年〔国語、数学、学習状況調査〕
- ・ 中学校第2学年〔国語、数学、英語、学習状況調査〕

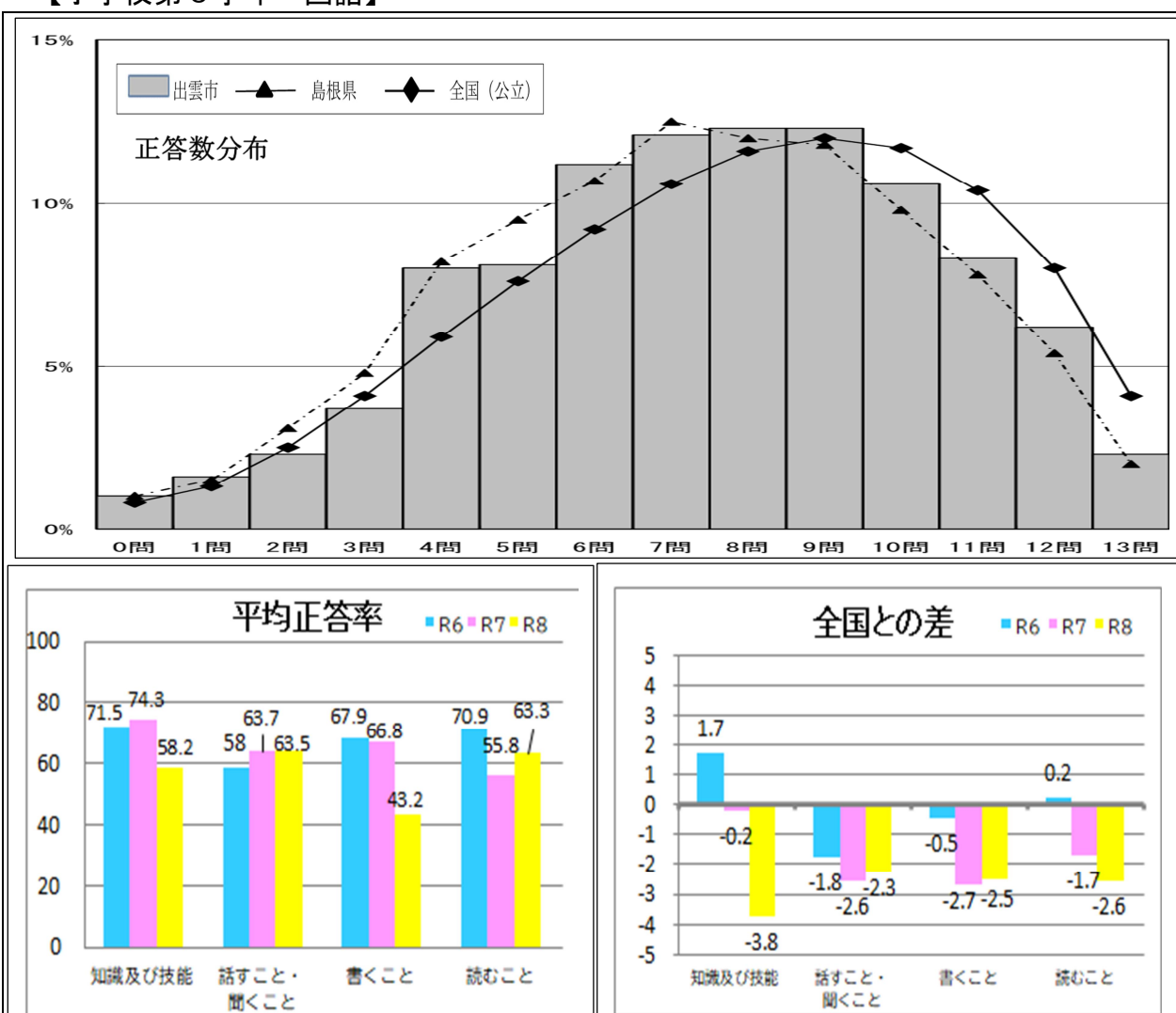
(3) 平均正答率

教科		国語		算数／数学		英語	
年度		R 7	R 8	R 7	R 8	R 7	R 8
小 4	出雲市	63.0	66.4	70.1	72.1		
	全 国	66.8	70.3	72.4	72.1		
	市と国の差	-3.8	-3.9	-2.3	±0		
小 5	出雲市	61.2	64.0	63.8	59.0		
	全 国	66.2	66.2	67.9	61.6		
	市と国の差	-5.0	-2.2	-4.1	-2.6		
中 1	出雲市	65.9	62.8	70.4	67.4		
	全 国	64.5	62.7	66.8	64.8		
	市と国の差	1.4	0.1	3.6	2.6		
中 2	出雲市	63.7	62.4	51.9	56.1	50.8	51.1
	全 国	65.0	60.7	53.6	57.2	51.3	50.9
	市と国の差	-1.3	1.7	-1.7	-1.1	-0.5	0.2

- ・ 小学校第4学年の国語は、全国平均正答率を下回り、算数は同程度であった。
- ・ 小学校第5学年は、国語、算数ともに、全国平均正答率をやや下回った。
- ・ 中学校第1学年の国語は、全国平均正答率と同程度であり、数学はやや上回った。
- ・ 中学校第2学年は、国語、数学、英語いずれも全国平均正答率と同程度であった。

3 全国学力調査の結果について

【小学校第6学年 国語】



- ・高正答率（8割以上の正答：13問中11問以上の正答）の児童の割合は、16.8%であり、全国（22.5%）を大きく下回る。中間層（4割から7割の正答：6問から10問の正答）の児童の割合は、58.5%であり、全国（55.1%）を上回る。
- 無解答率は、13問のうち7問が全国より高く、課題が見られる。

知識及び技能

- ・市平均正答率は、県平均正答率と同程度であるが、全国平均正答率を下回る。

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

- 話や文章の種類とその特徴について理解することができている。

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができている。

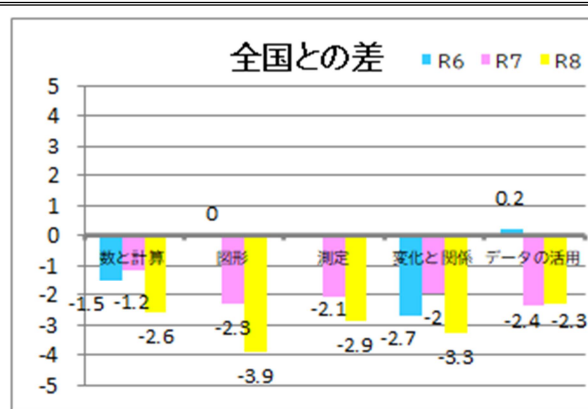
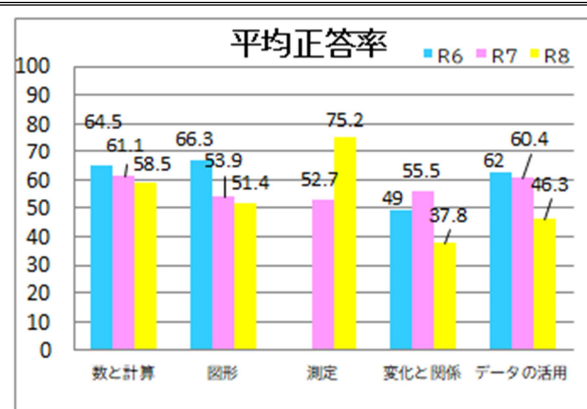
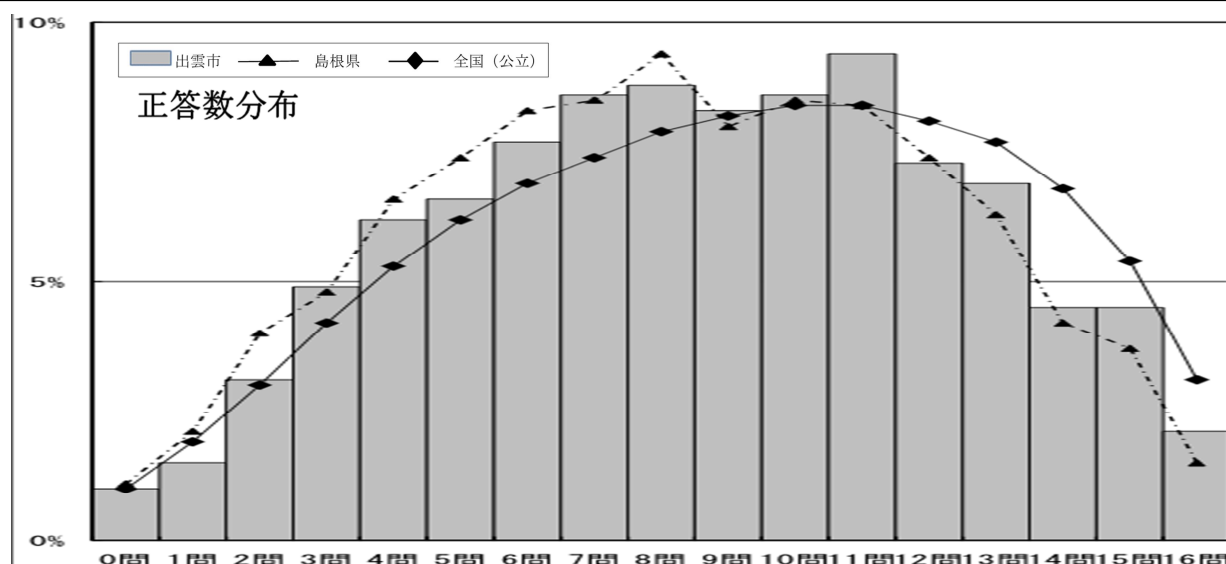
《書くこと》

- 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。

《読むこと》

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができている。

【小学校第6学年 算数】



・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の児童の割合が18%であり全国（23%）を大きく下回る。中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の児童の割合は51%であり全国（48.4%）をやや上回る。
○無解答率は、16問のうち10問は全国よりも低く、4問は同程度である。

数と計算

○小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることのできている。

図形

○立方体の体積の計算による求め方について理解している。

●体積の意味について理解することに課題が見られる。

測定

○示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることのできている。

変化と関係

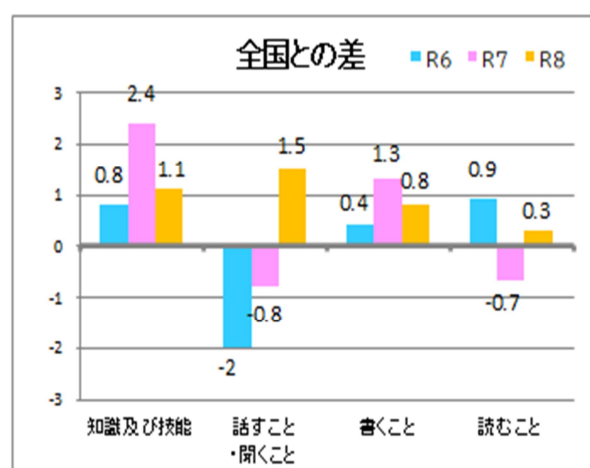
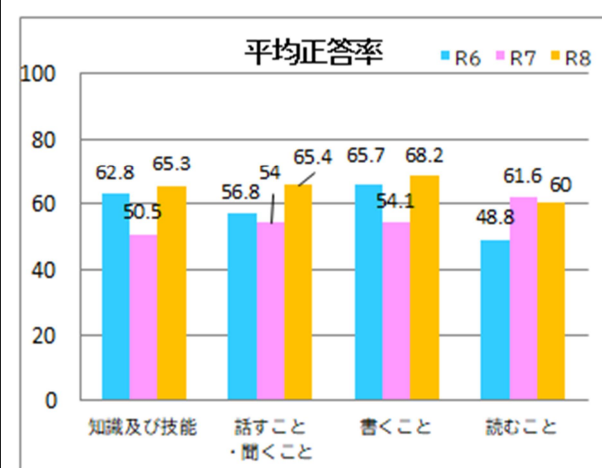
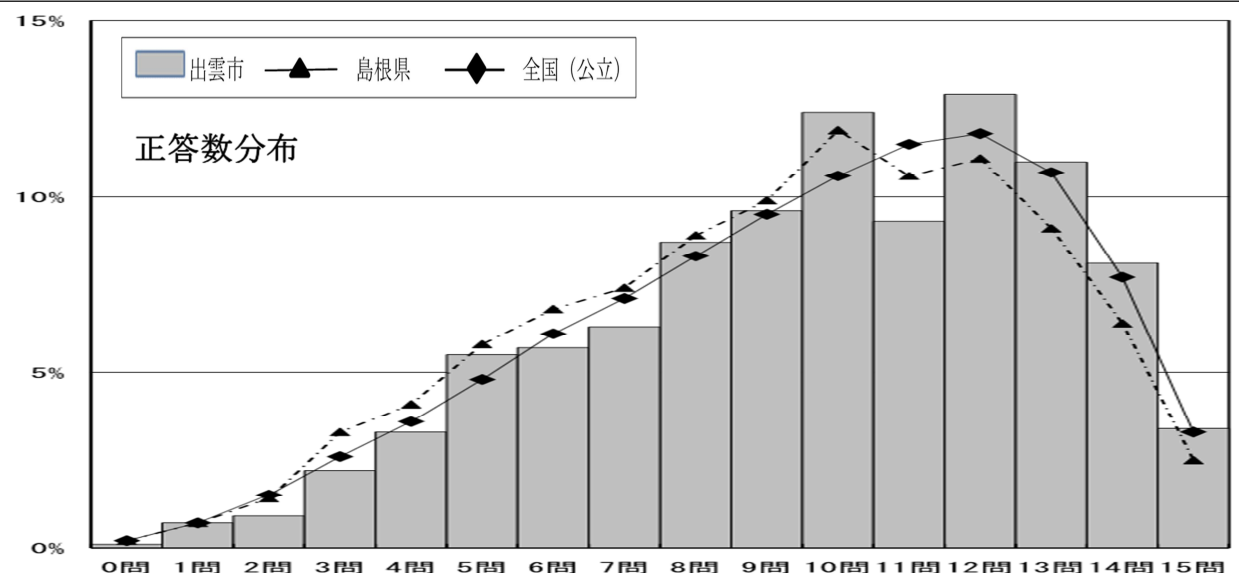
●基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題が見られる。

データの活用

○帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができている。

●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることにより課題が見られる。

【中学校第3学年 国語】



・高正答率（8割以上の正答：15問中12問以上の正答）の生徒の割合が35.4%であり全国（33.5%）と同程度である。また、中間層（4割から7割の正答：6問から11問の正答）の生徒の割合は、52%であり全国（53.1%）と同程度である。
○無解答率は、15問のうち11問が全国よりも低い。

知識及び技能

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○助動詞の働きについて理解している。

○単語の種別や活用について理解している。

○情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使うことができる。

●語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題が見られる。

思考力、判断力、表現力等

《話すこと・聞くこと》

○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。

《書くこと》

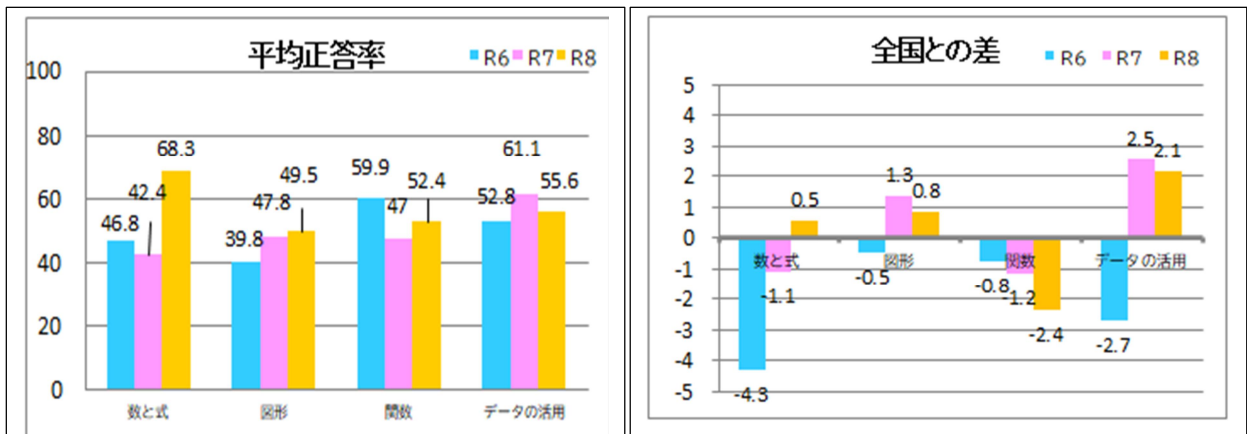
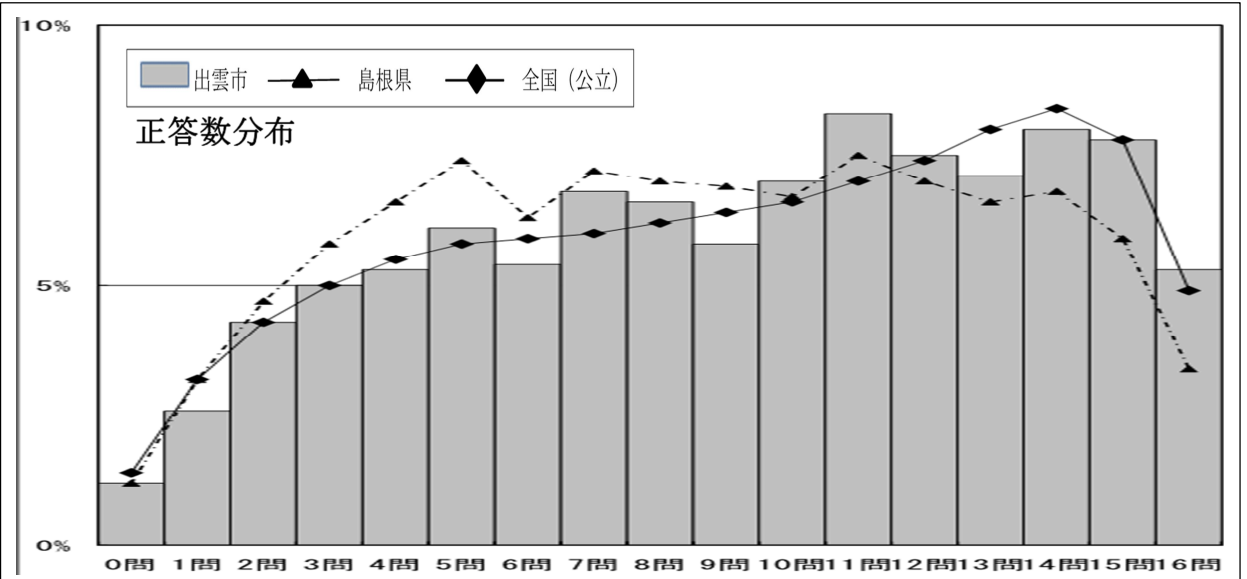
○表現の効果を考えて描写することができる。

《読むこと》

○文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉えることができる。

●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られる。

【中学校第3学年 数学】



・高正答率（8割以上の正答：16問中13問以上の正答）の生徒の割合が28.2%であり全国（29.1%）と同程度である。中間層（4割から7割の正答：7問から12問の正答）の生徒の割合は42%であり、全国（39.6%）をやや上回る。
○無解答率は、16問のうち12問が全国よりも低い。

数と式

○具体的な場面において正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる。
○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

図形

○市平均正答率が、全国平均正答率と同程度である。
●具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことに課題が見られる。

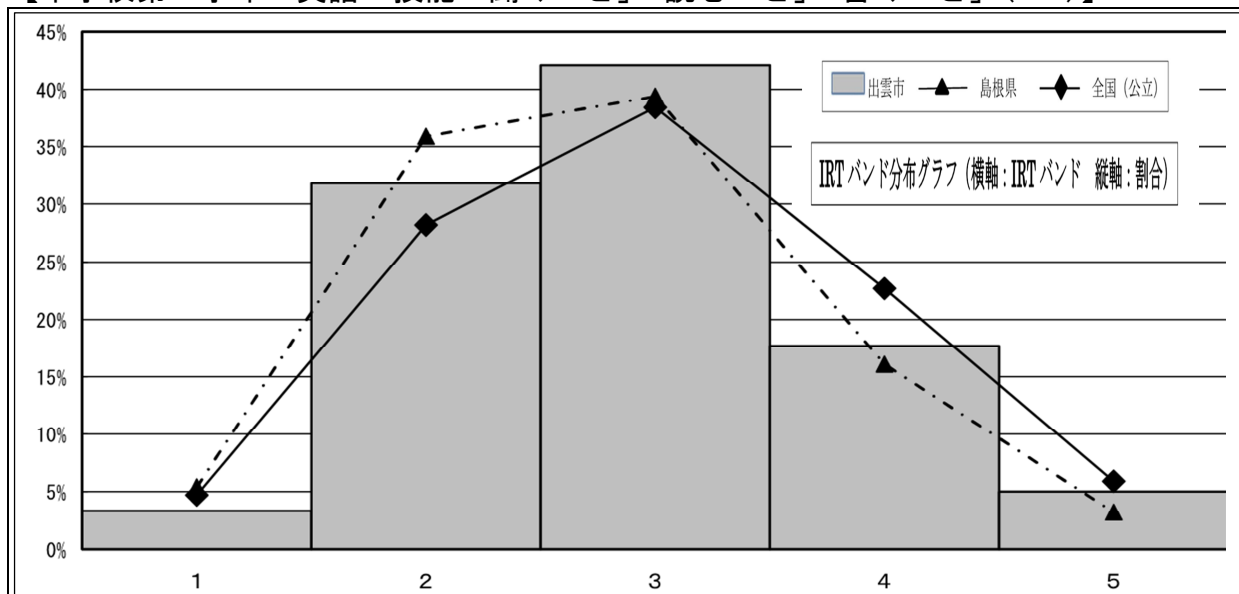
関数

○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用

○箱ひげ図と四分位数の対応について理解している。
●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題が見られる。

【中学校第3学年 英語3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」(CBT)】



聞くこと

○日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。

【一部の生徒が取り組む問題】

○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。

【一部の生徒が取り組む問題】

読むこと

○日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる。

【一部の生徒が取り組む問題】

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。

【生徒全員が取り組む問題】

書くこと

●社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題が見られる。

【生徒全員が取り組む問題】

●日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られる。

【一部の生徒が取り組む問題】

【注釈】

1 令和8年度中学校英語の CBT 問題について

(1)公開問題 10 問と非公開問題 12 問を組み合わせ、全 22 問で構成。

(2)公開問題は、生徒全員が取り組む問題 7 問と生徒により異なる問題 3 問のセットがある。生徒により異なる問題 3 問のセットについては、当該問題に同じ学校でも取り組む生徒と取り組まない生徒がいるが、学校の生徒全員で全ての公開問題に取り組む設計となっている。

(3)非公開問題 12 問については、生徒ごとに異なる問題を解く。

2 IRT バンドについて

・IRT スコアを 1～5 段階に区切ったもの。3 を基準とし、5 が最も高い。

4 学習状況調査の結果について

(1) 児童生徒の質問紙調査の経年変化と全国平均との差 (全国調査から抜粋)

【生活や家庭学習に関すること ①～⑥】

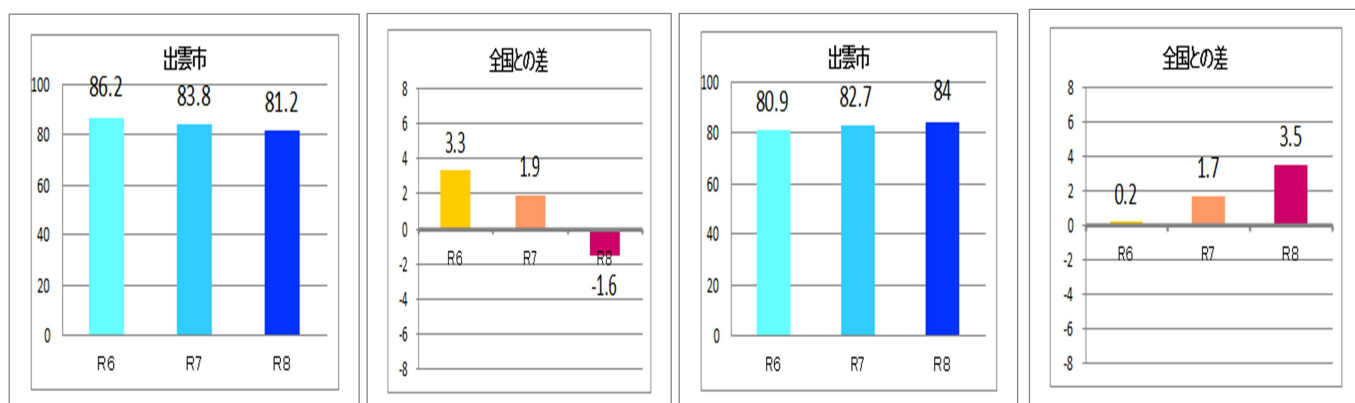
- ・ 8 割以上の児童生徒が、同時刻に就寝している。中学校は、全国を上回っている。
- ・ 8 割程度の児童生徒が「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答しており、学びを広げ深めようとする児童生徒が多く見られる。
- ・ 8 割以上の児童生徒が「自分にはよいところがある」と自己肯定感をもっている。
- ・ 「将来の夢や目標をもつ」と回答した児童の割合は、8 割程度である。中学校は、7 割程度である。小中ともに、全国と同程度である。
- ・ 7 割～8 割の児童生徒が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答しており、ふるさとへの貢献意欲が高い児童生徒が多く見られる。

① 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

「している」「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

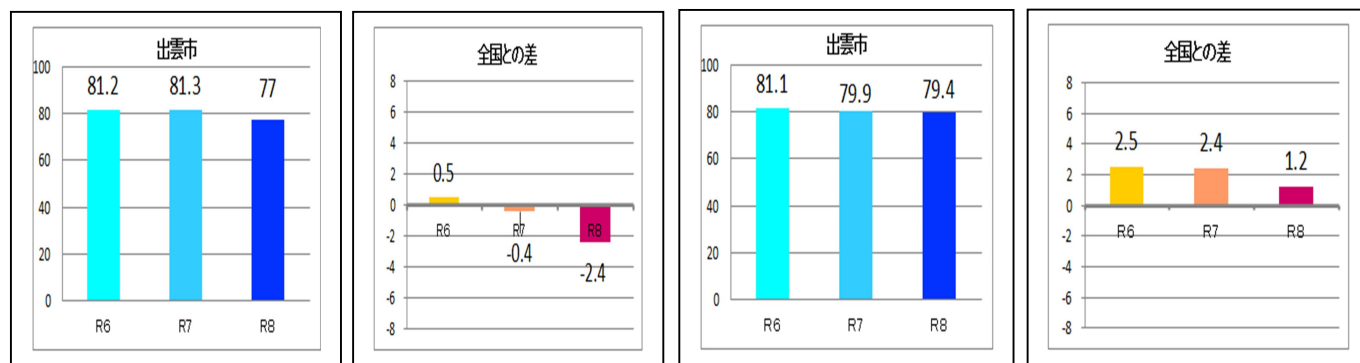


② 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

「できている」「どちらかといえば、できている」と肯定的な回答をした児童生徒の

小学校第6学年

中学校第3学年

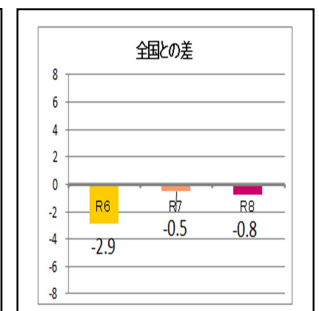
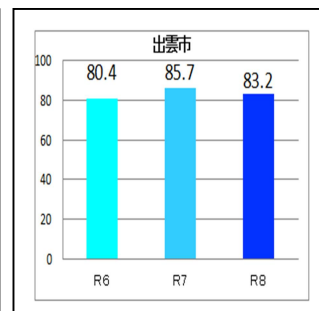
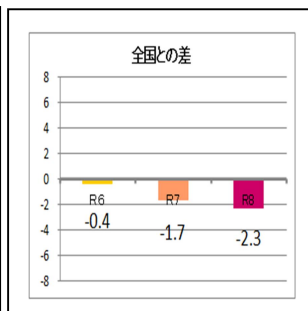
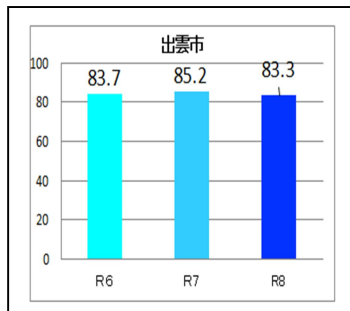


③ 自分には、よいところがあると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

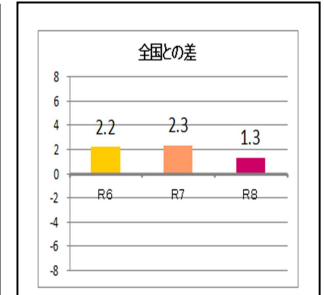
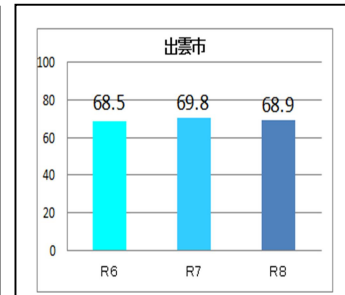
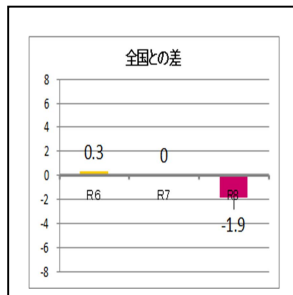
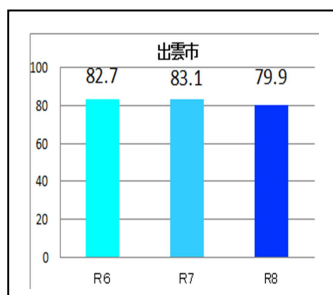


④ 将来の夢や目標を持っていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

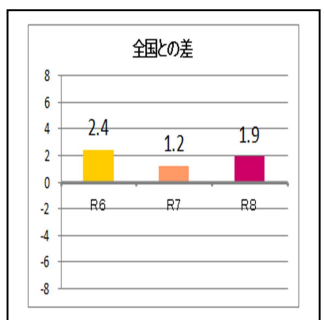
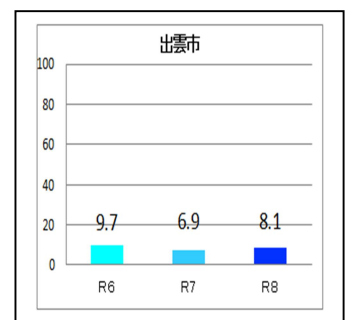
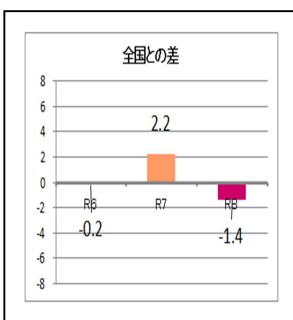
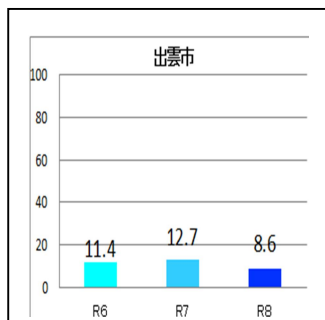


⑤ 新聞を読んでいますか。

「週に1回以上読んでいる」と回答した児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

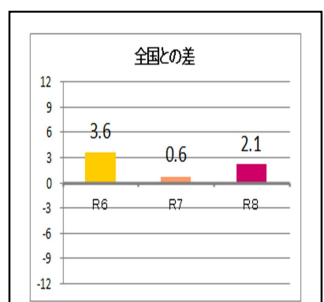
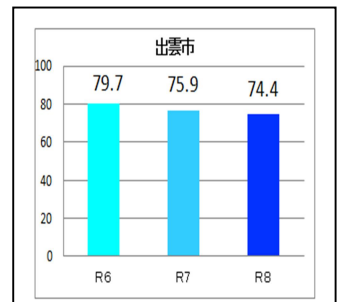
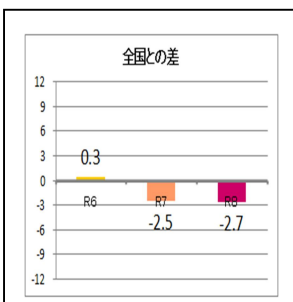
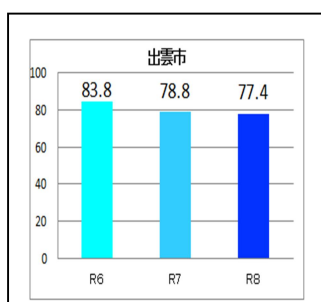


⑥ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年



【学習に関すること ⑦～⑬】

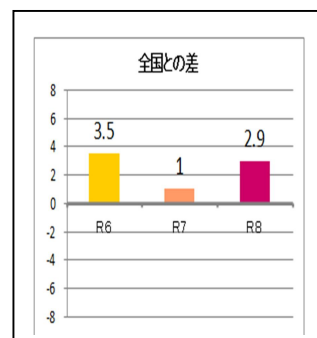
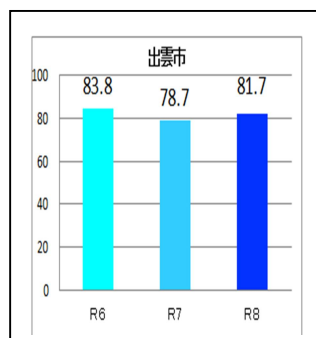
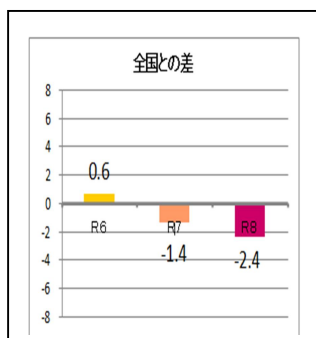
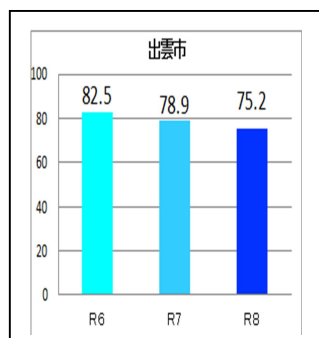
- ・8割程度の児童生徒が「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」と回答している。小学校は、全国をやや下回っているが、中学校は、全国をやや上回っている。
- ・「国語の授業内容がよく分かる」、「算数/数学の授業内容がよく分かる」と回答した児童の割合は8割程度であり、全国と同程度である。また、中学校は、7割程度であり、全国と同程度である。
- ・8割以上の児童生徒が「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している。主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業づくりが進められている成果と考えられる。
- ・「授業でICT機器を週1回以上活用している」と回答した生徒の割合は、8割以上であるが、児童の割合は、7割程度である。

⑦ 前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

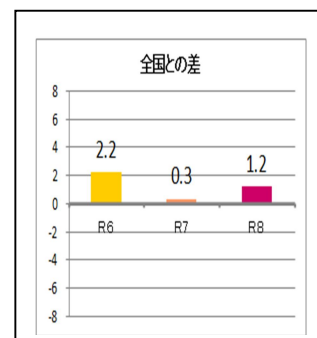
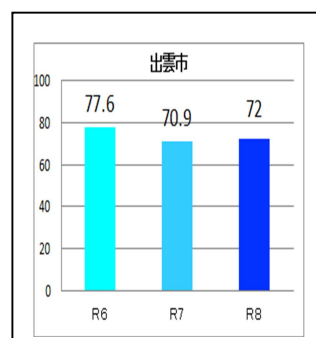
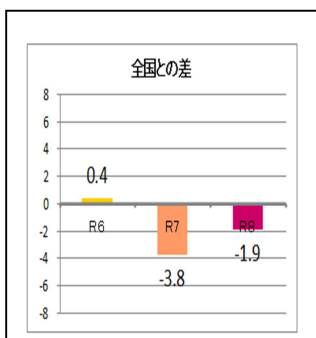
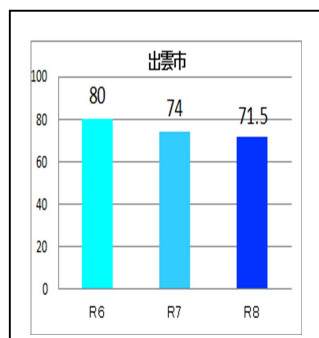


⑧ 前の学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

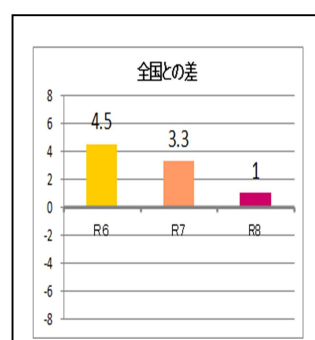
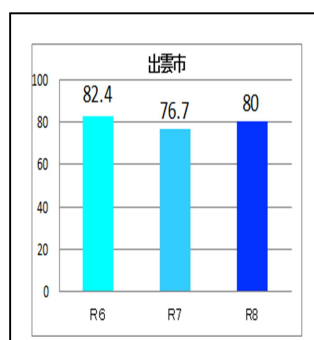
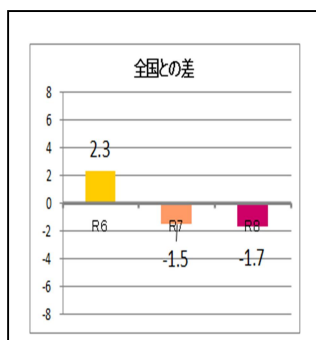
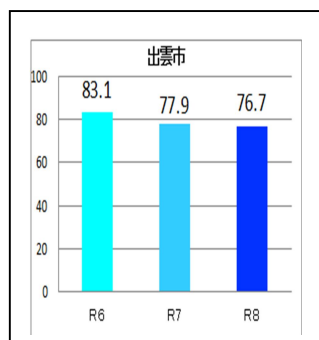


- ⑨ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

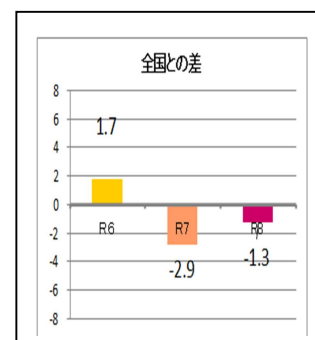
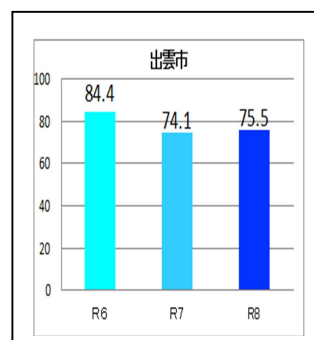
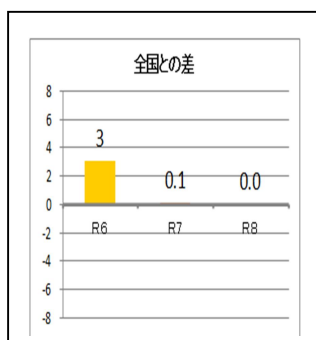
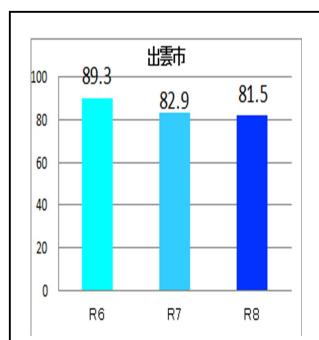


- ⑩ 国語の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

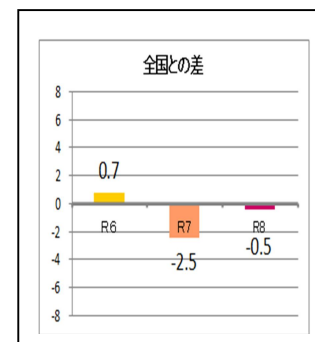
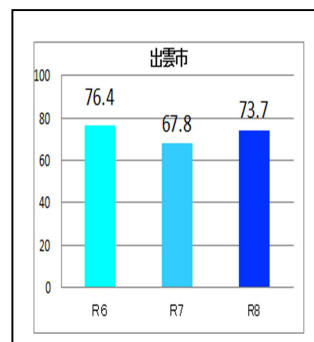
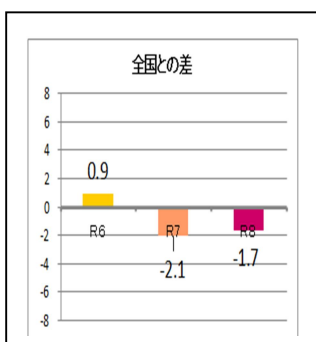
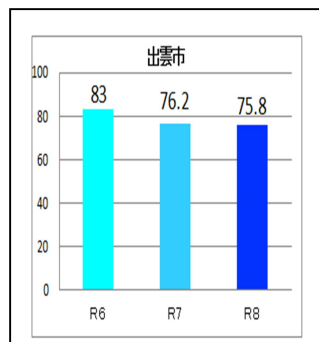


- ⑪ 算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

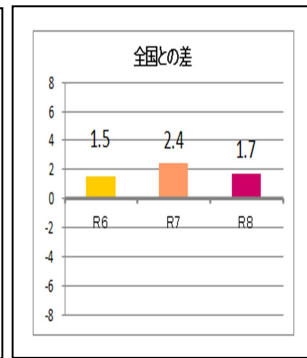
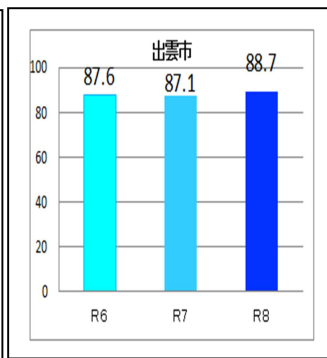
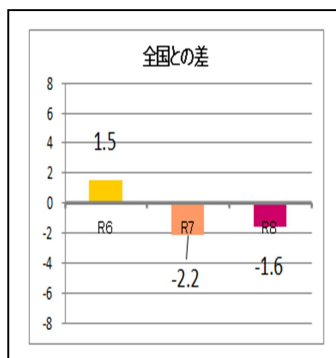
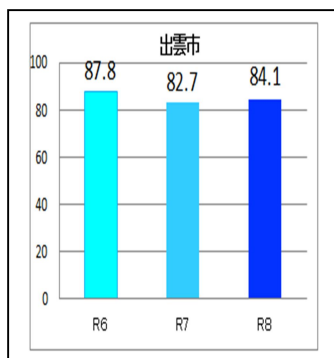


- ⑫ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

小学校第6学年

中学校第3学年

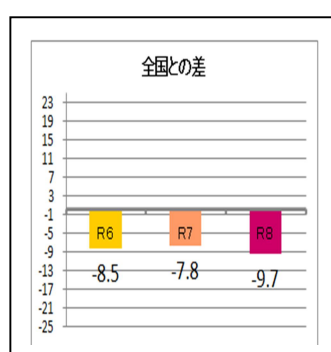
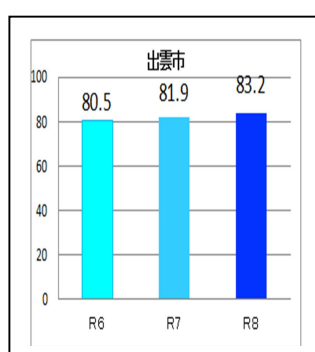
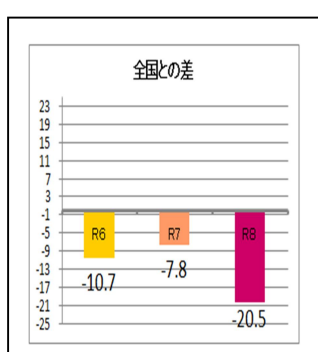
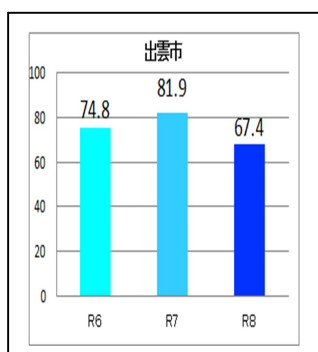


- ⑬ 前の学年までに受けた授業では、P CやタブレットなどのI C T機器を使用しましたか。

「週1回以上」と回答をした児童生徒の割合

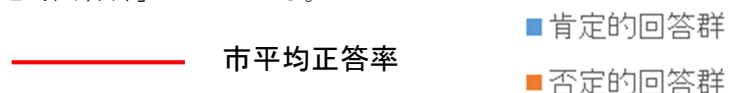
小学校第6学年

中学校第3学年

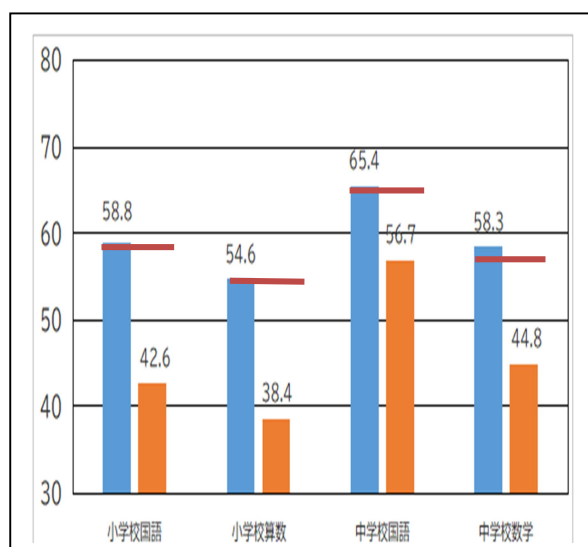


(2) 児童生徒の学習状況と教科の平均正答率 (全国調査から抜粋)

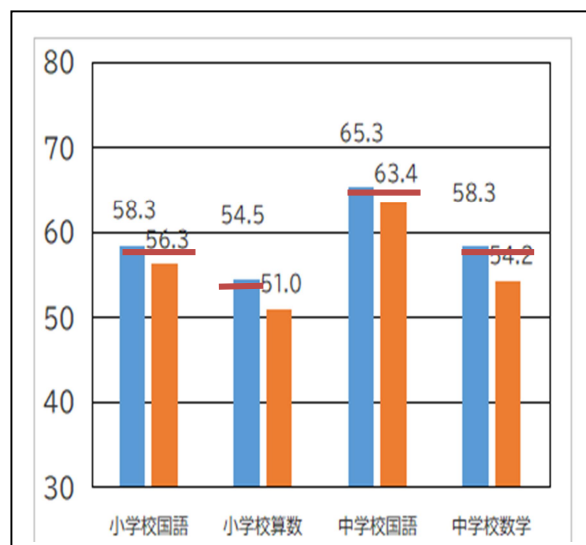
※ 次の①～⑯の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」などと回答した児童生徒を「肯定的回答群」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒を「否定的回答群」としている。



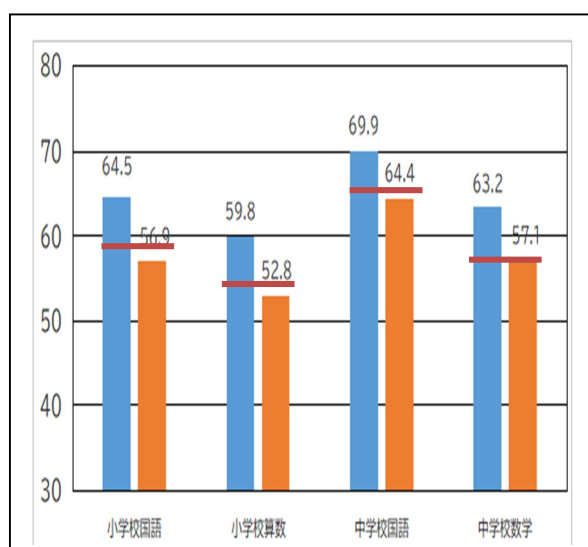
①朝食を毎日食べていますか。



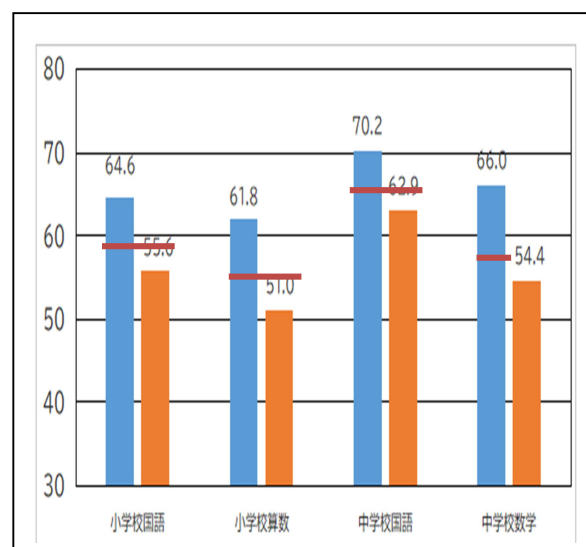
②学校に行くのは楽しいと思いますか。



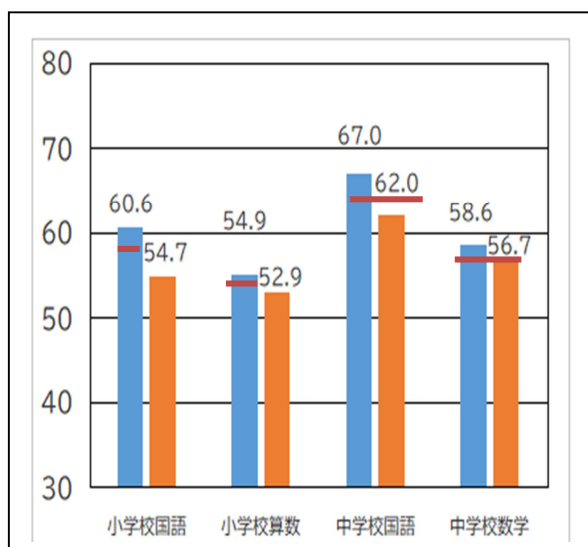
③学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(青：30分以上、赤：30分未満)



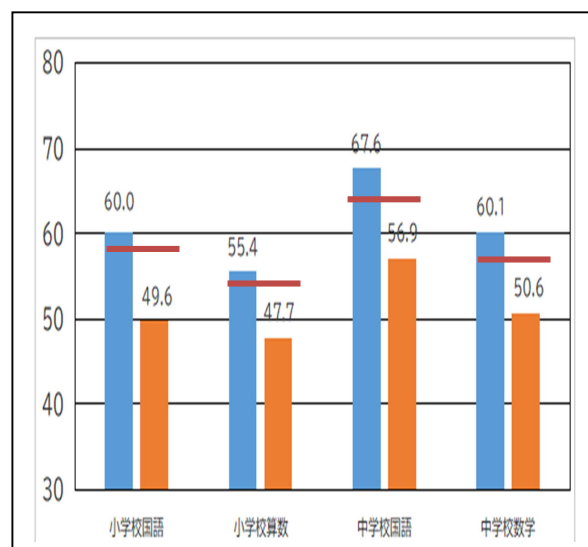
④あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(青：100冊以上、赤：100冊未満)



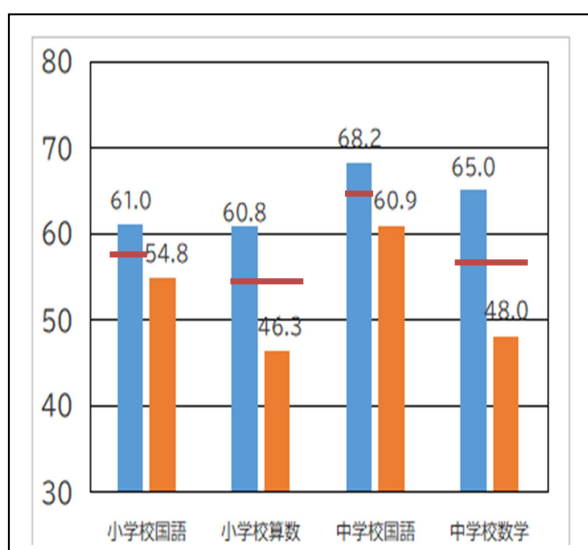
⑤国語の勉強は好きですか。



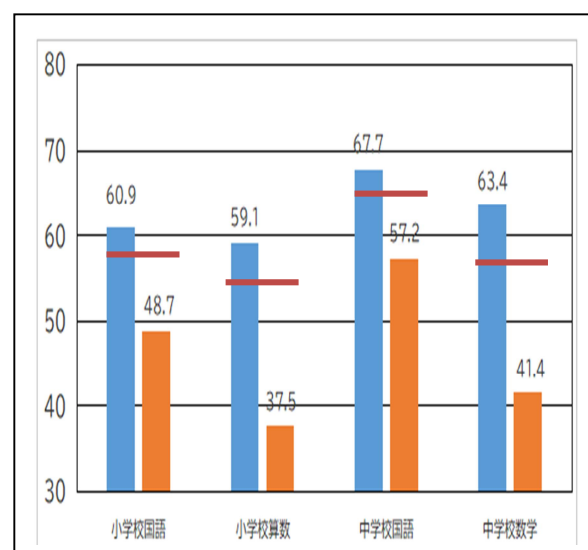
⑥国語の授業の内容はよく分かりますか。



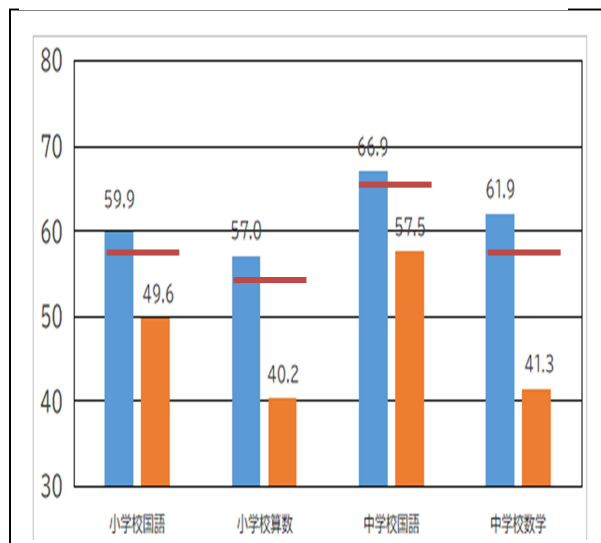
⑦算数/数学の勉強は好きですか。



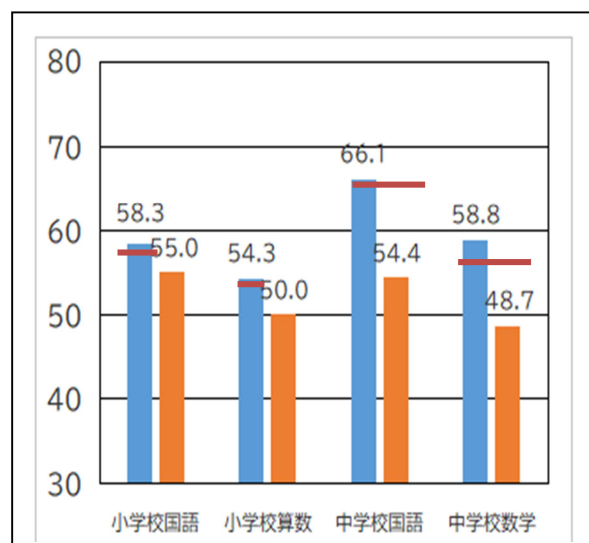
⑧算数/数学の授業の内容はよく分かりますか。



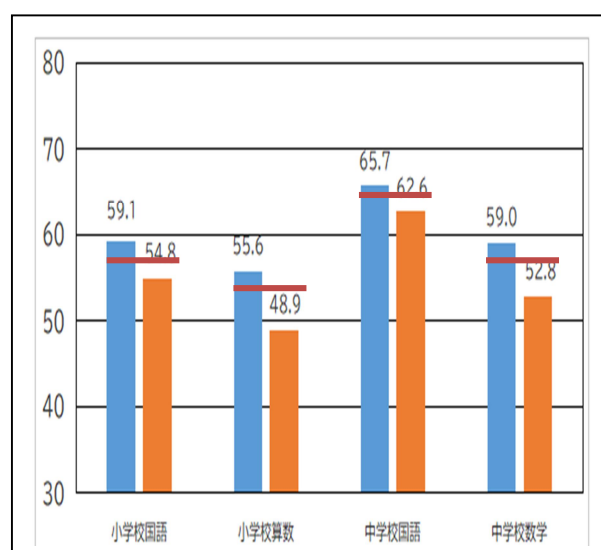
⑨算数/数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか。



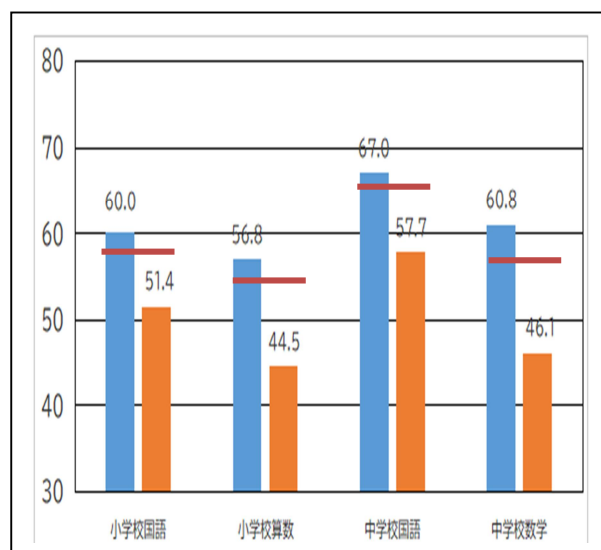
⑩先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。



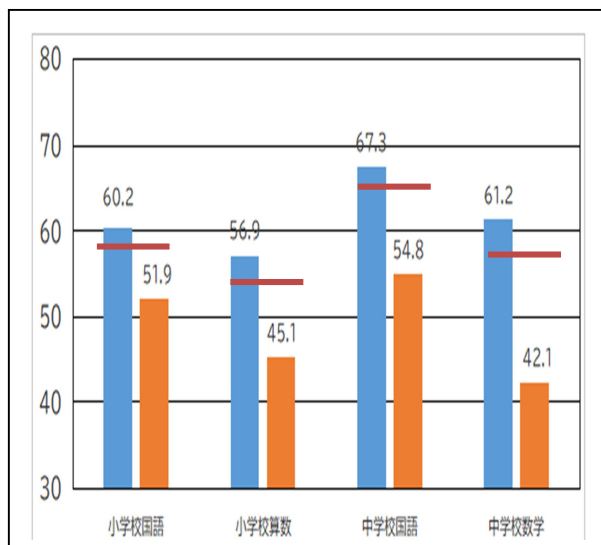
⑪自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



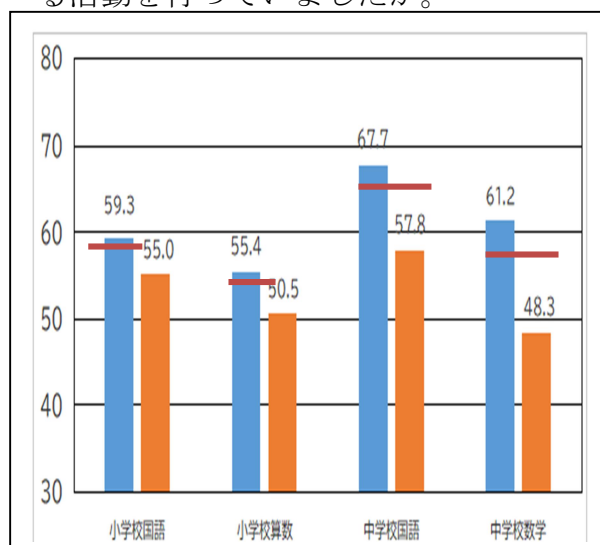
⑫分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか。



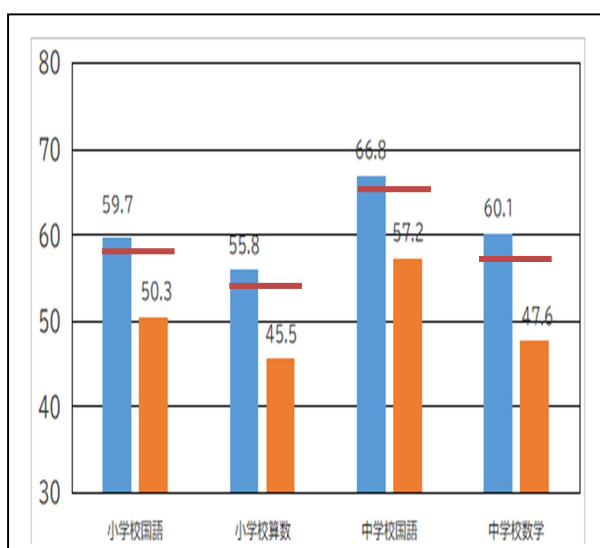
⑬授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



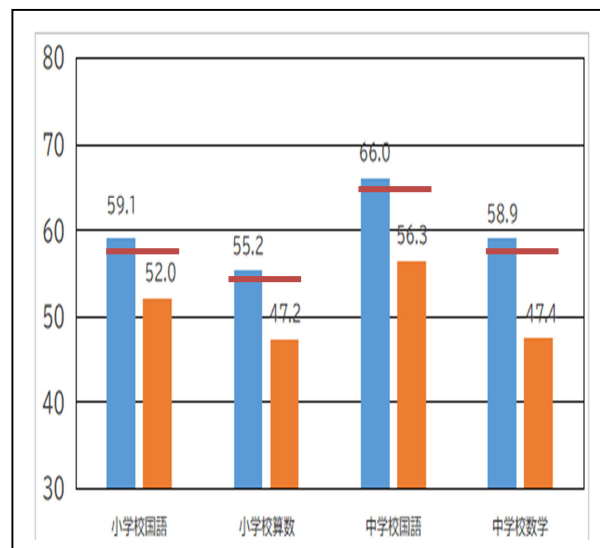
⑭授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



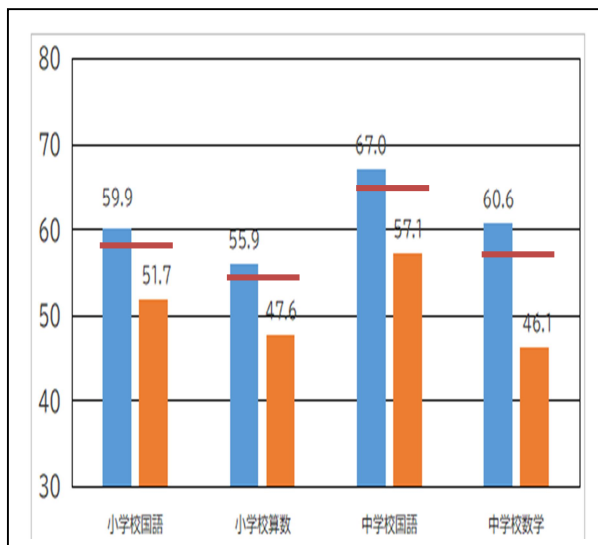
⑮授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



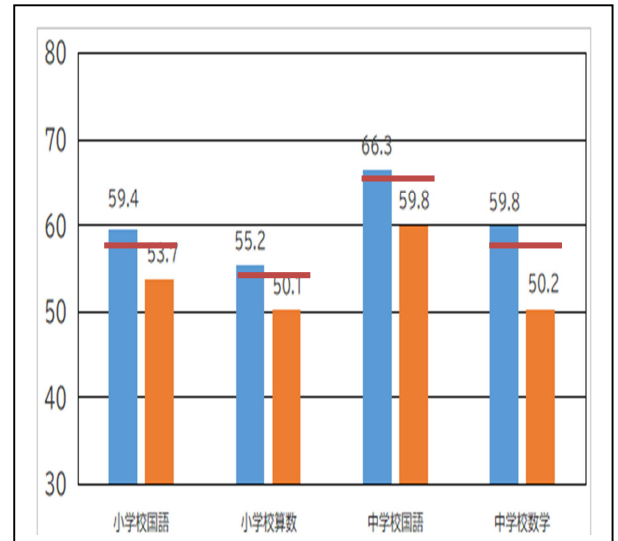
⑯学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。



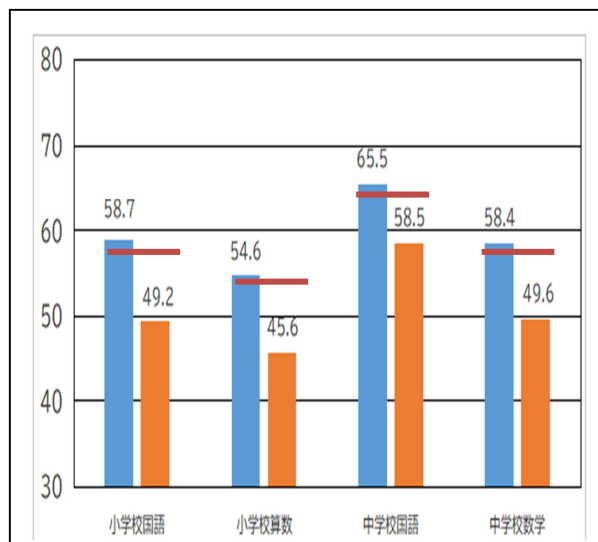
⑰学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができましたか。



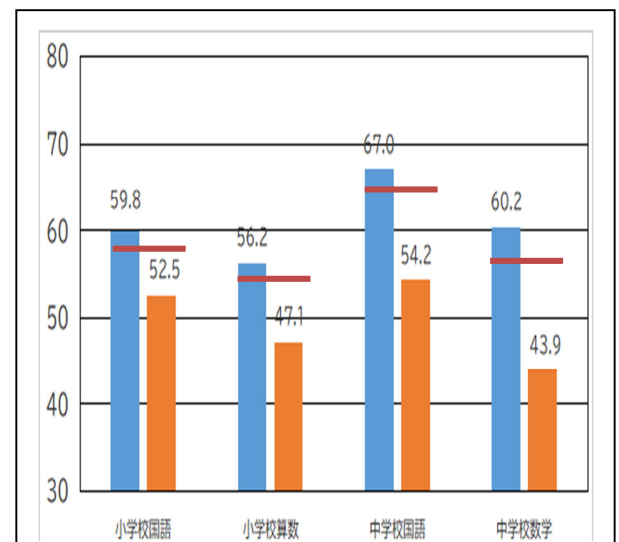
⑱授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いましたか。



⑲授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



⑳総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



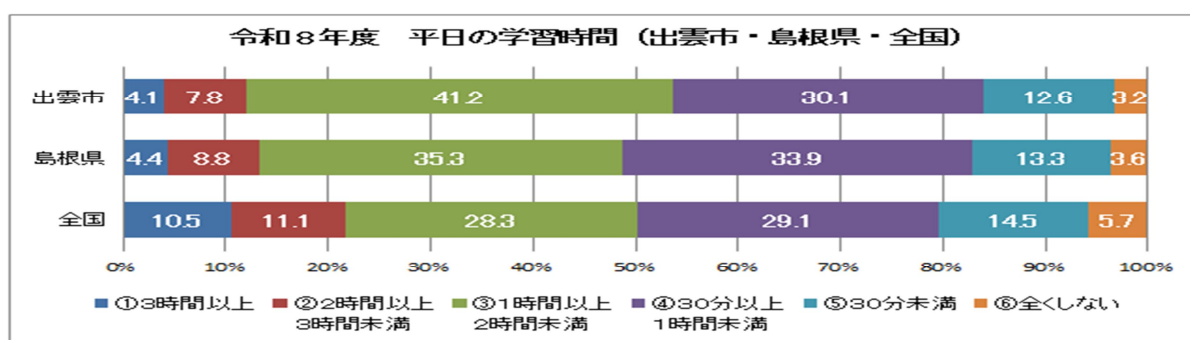
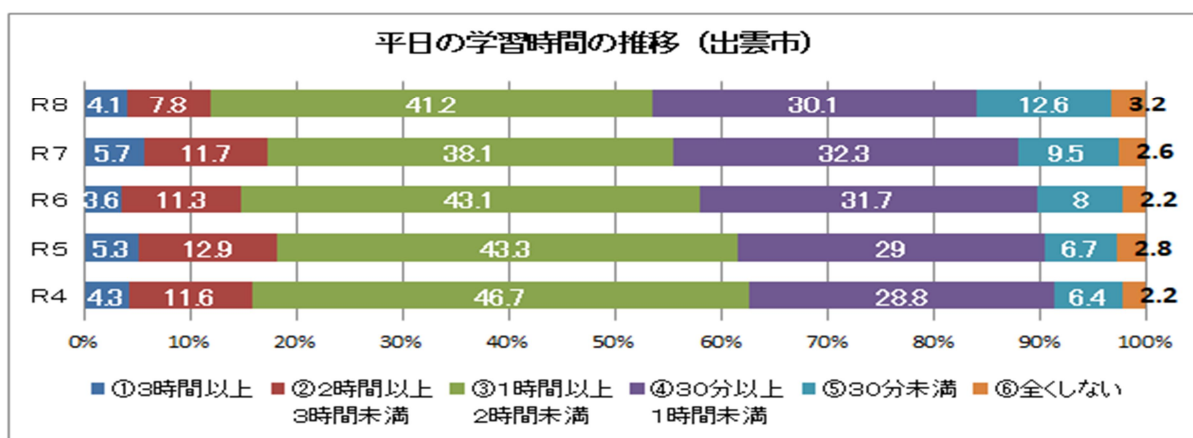
(3) 平日の家庭学習時間の状況

① 小学校第6学年

(%)

平日1時間以上学習する児童の割合は、島根県及び全国より高い。

平日1時間以上学習する児童の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。

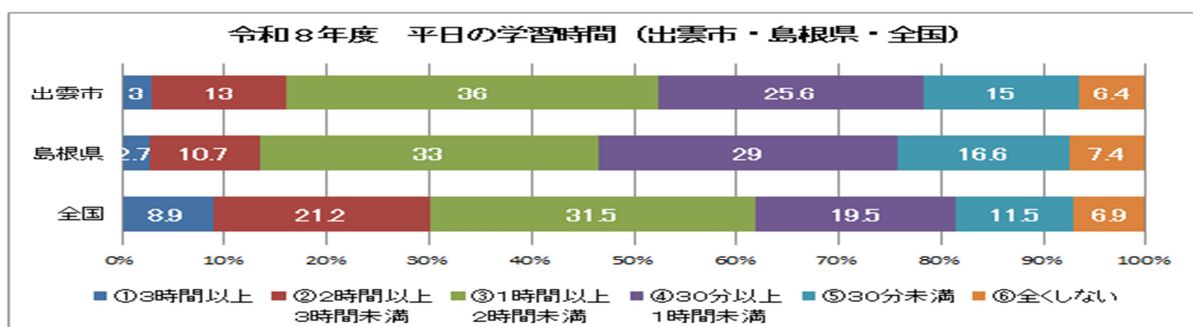
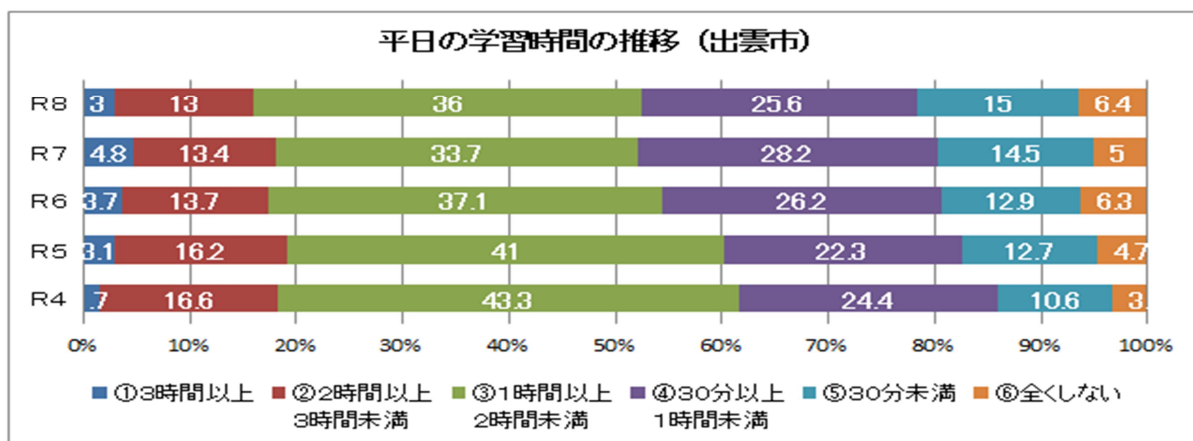


② 中学校第3学年

(%)

平日1時間以上学習する生徒の割合は、島根県より高いが全国より低い。

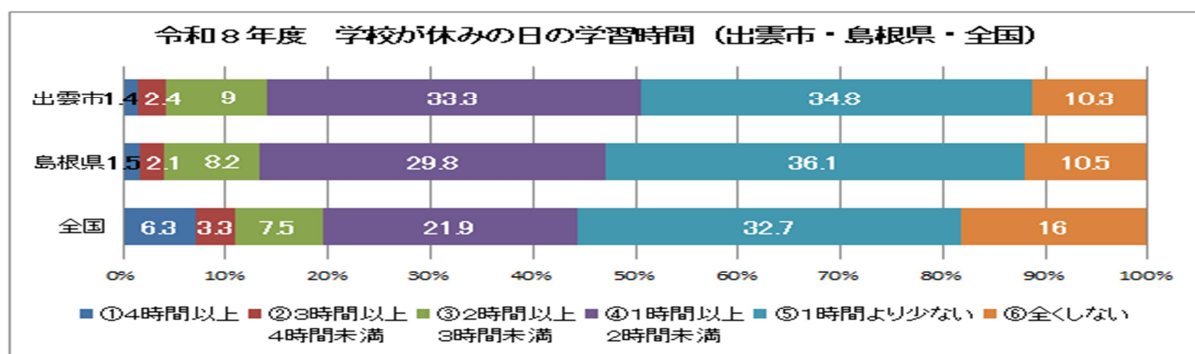
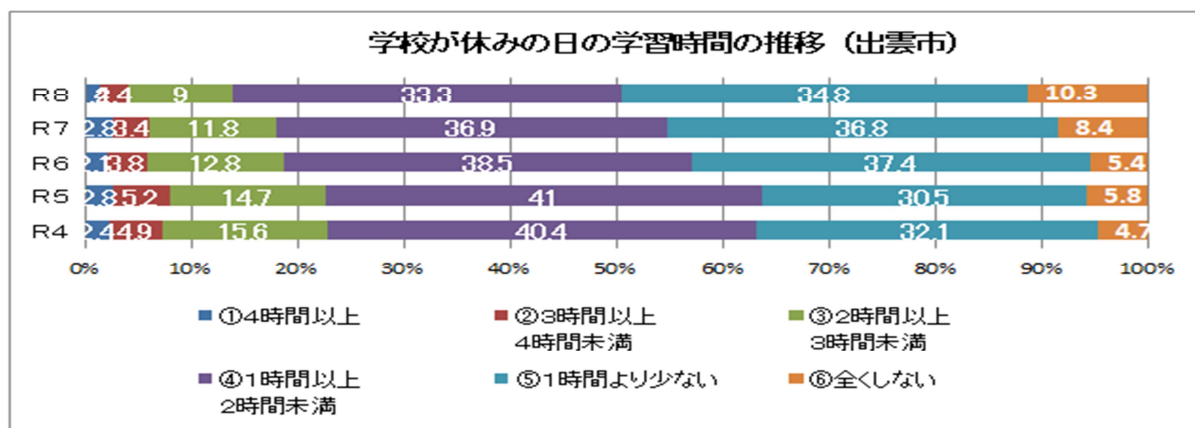
平日1時間以上学習する生徒の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。



(4) 学校が休みの日の家庭学習時間の状況

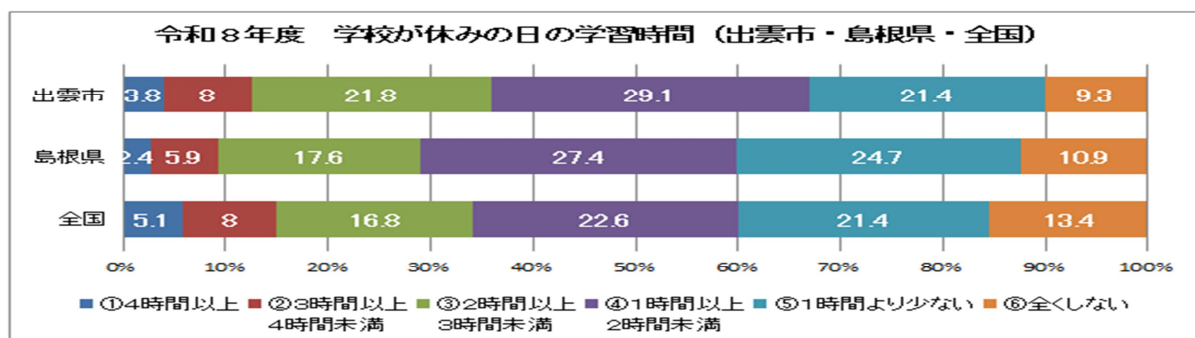
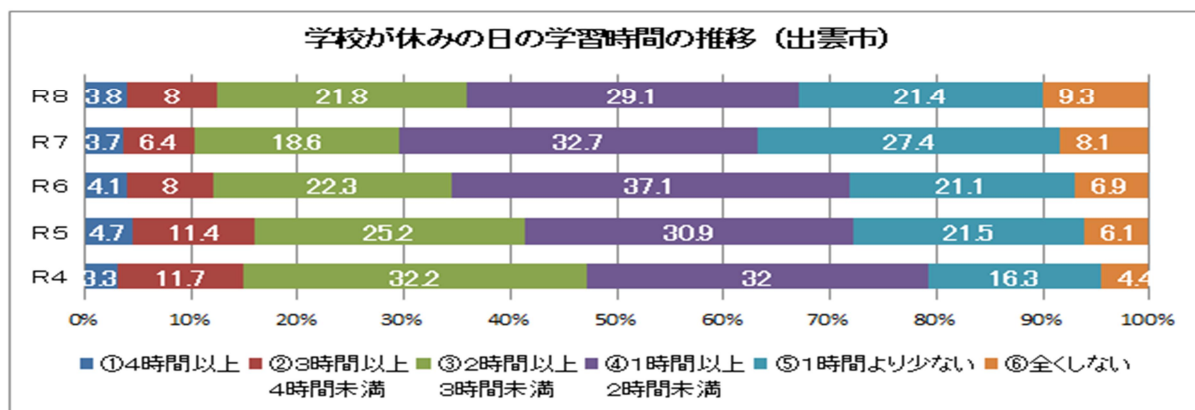
① 小学校第6学年 (％)

学校が休みの日に、1 時間以上学習する児童の割合は、島根県及び全国より高い。
学校が休みの日に、1 時間以上学習する児童の割合は、減少傾向であり、学習時間の確保が課題である。



② 中学校第3学年 (％)

学校が休みの日に、1 時間以上学習する生徒の割合は、島根県及び全国より高い。
学校が休みの日に、1 時間以上学習する生徒の割合は、本年度はやや増加しているが、依然として学習時間の確保が課題である。



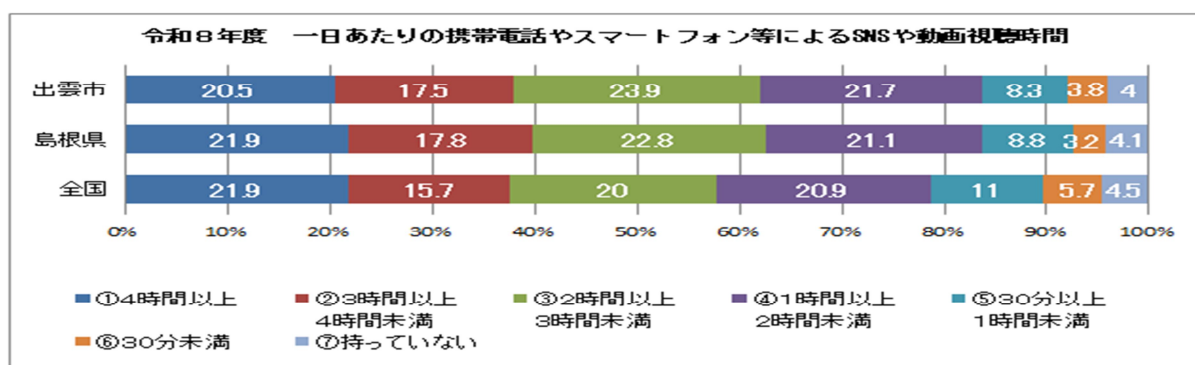
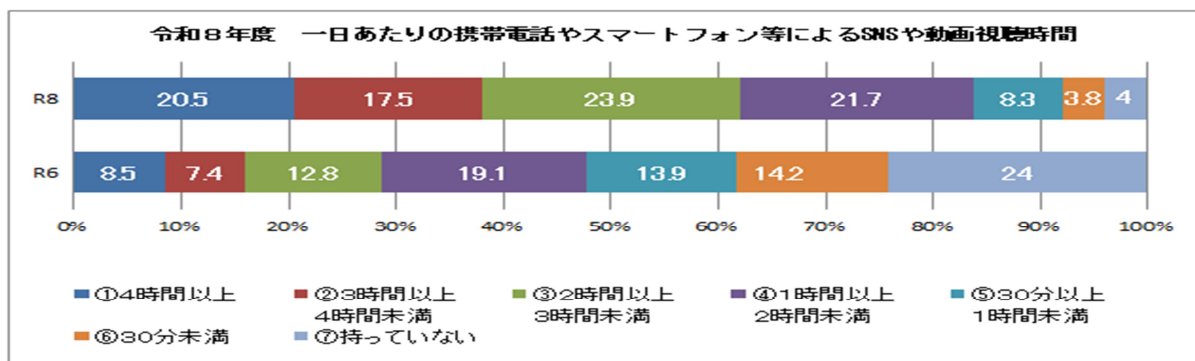
(5) 平日の SNS や動画視聴などの状況

① 小学校第6学年

(%)

平日に4時間以上 SNS や動画視聴などをする児童の割合が約2割である。

令和6年度調査と比較すると、SNS や動画視聴をする児童の割合が増加している。



② 中学校第3学年

(%)

平日に4時間以上 SNS や動画視聴などをする生徒の割合が約2割である。

令和6年度調査と比較すると、SNS や動画視聴をする生徒の割合が増加している。

